

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 109

今月のテーマ

子どもとお金を考える part.2

先月号では、子どもの自立と自律に向けたお金を取巻く教育について、家庭の責任、社会の責任について考察したが、みなさんはどのように思われたらうか？今、なぜお金に関する教育を意識しなければならないかは、前号でも述べたように時代背景や生活環境の変化により、自然に身に付くことが難しくなったからだ。

現在の子どもたちは、一頃から比較すると欲しいものが容易に手に入ってしまう生活を送っている。親の働く姿を見る機会も少なくなり、手元のお金が働いて得られた認識もない。お金の大切さをわすれた安易な購買行動は、苦勞してもの手に入れることの経験を遠ざけ、金銭の感覚をマヒさせてしまうことになりかねない。物質的に豊かになったとは言え、高校生がブランド物のバックなど持っていることも少なくないし、お金の使い方が必要なものから欲しい物の購入へと変化している感も否めない。将来、大人になってからの経済環境は、親の経済力とは一致しないし、現実として欲しい物だけを購入する訳にもいかない。しかし、金融商品の発達や多様化で、手元にお金が無くても欲しいものを手に入れられてしまう。負債の悪循環を未然に防ぐためにも、貯めてから買うという当たり前の意識を育てていかなければならないと思うのだが…。

将来の自立は、経済的な安定なくしては成り立たないし、逆に経済の安定は自律なくして成り立たない。子育て世代の親は勿論、子育てを経験してきた祖父母、教育現場や地域社会も子どもたちに伝えるべき責任と義務を改めて考えねばならない。子育ては、単に子どもを育てること(身体的な成長)にあらず！鳥や獣がそうであるように、一定の成熟後には“外敵から身を守ることと餌の捕り方”という生きる術を教える。それをもって巣立ち、いわゆる自立となるが、人間の場合は社会の中で共生していくための「自律心」も備わっていなければならない。しかし、これが中々厄介な代物で、生活環境にも大きく左右されてしまう。私自身は、未だに未熟な自律心と葛藤中の日々を生活している。二人の子どもが社会人となり、一見すると子育て卒業に見えても、まだまだ考えさせられ、教えられることも多い。子育てに終わりは無いのかも知れないなあ…。



伝えるべきことは、
 高度に発達した社会は、ある意味では複雑で分かりにくいことも多くなった。情報を持たないまま、不用意に手を出してしまうと大やけどをしようことにもなりかねない。伝えるべき最低限のことは、鳥や獣がそうであるように、“外敵から身を守ることと餌の捕り方”である。すなわち、様々な誘惑やトラブルから身を守るための金融商品の知識や情報を持つこと、自らの収入で計画的に生計を維持することだ。抽象的な言い回しだが、子どもそれぞれの年齢で、その伝えるべき具体的な内容は変えていかなければならない。ここから先は、それぞれの子ども年代に合わせ、何を伝えるべきかを考えてみよう。

伝えるべきことは

“だんだん、講釈を垂れるような、面倒くさい感が漂ってきたが、可愛い我が子の健やかな成長のため、しばしお付き合いのお願いしたい。んっ！ここまで来て、ふと思っただが、一頃と比べると物質的にも格段と豊かになったし、暮らし向きはずいぶん変わってきたのに、何故に今”伝えるべきこと、などを考えねばならないのか？昔は、子どもへのしつけや教育についてこれほど考えることも無かったように思うのだが…。豊かさとは、奪ってしまったものもあるのか！？おぞましい犯罪や暴力、身近に感じるストレスなどなど、なんかおかしい…。もとい！ぼやいている場合ではない、伝えるべきことを真面目に考えてみよう。

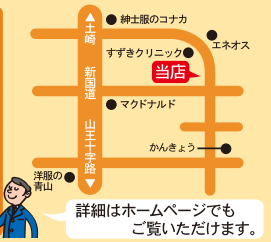


齋藤 廣勝 (さいとう ひろかつ)
 株式会社トータルライフサポート代表取締役
 ・CFP®ローティファイドファイナンシャルプランナー
 ・1級ファイナンシャルプランニング技能士
 ・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
 ・住宅ローンアドバイザー
 ・金融広報アドバイザー

保険と暮らしの相談センター

“生命保険でこんなお悩みはございませんか!?”
 ◆ 保険の見直しを検討している
 ◆ 加入している保険が本当に良いのかわからない
 ◆ 更新時期が近く、保険料がアップしてしまう
 ◆ 将来の子供の教育費が心配
相談は無料!!
 納得いくまで相談できます。

お気軽にご相談ください。
 株式会社 トータルライフサポート
 〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
 ● 営業時間 / 9:30~18:30 (土・日・祝日は9:30~17:00)
 ● 定休日 / 水曜日
TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp



● は「一子どもだけか？」

いざ、解説しようと思ったら、ふと子どもだけの問題かどうか気になってきた。携帯電話やパソコンの普及により、インターネットを介したカード払いで欲しいものが容易に手に入る。豊かな生活の中で子ども時代を送り、お金の苦労もせず社会人になった若者が、安易な物品の購入における借入で、やがてトランプルや多重債務となり、生活力そのものの貧困を作りかねない。だとすれば、そういう若者を送り出してしまった、家庭や社会全体が考えていかなければならない問題かもしれない。子どもに伝えることをテーマにしているが、まずは大人が学ぶべきことも少なくない。

● 全世代共通の問題

年代別に習得すべき内容とその伝え方は異なるものの、根本にあるものには変わりはない。当たり前すぎるようなことだが、次に3つのことをあげてみた。

- ① お金は大切なものであり、限りがあることを知る
- ② 収入と支出を管理し赤字にならないようする
- ③ 収支状況を常に把握し、将来の計画を立てる

当たり前すぎて、子どもにどう教えるかを悩んでしまいがちだが、この3つは常に念頭に置いておかなければならない。

● 金融リテラシー・マップの存在

前回、「金融リテラシー」を紹介したが、これを受け2016年に金融経済教育推進会議が関係省庁、有識者金融関係団体、金融広報中央委員会をメンバーとして設置された。この中で、「金融リテラシー」を最低限身に付けるべき知識として、年齢階層別、体系的かつ具体的にまとめられた。教育を担う様々な現場で実際に活用してほしいとの意味で作成されたもので、私ごときがこれを評論すること自体おこがましいが、実に良く整理されている。教育を担う様々な現場での活用とは言っているが、最も身近な家庭内でこそ、まずは見るべきだと考えている。核家族化や生活環境、社会の環境が変化する中において、金銭・金融教育は意識せざるを得なくなってきた。

<https://www.shiruporuto.jp/public/data/survey/iteracy/pdf/map.pdf>

皆さんにも是非一度ご覧になっていただき、今できることを一緒に始めたい。ここから先は、「金融リテラシー・マップ」を参考にしながら解説する。

● 小学生に伝えたいこと

保育園・幼稚園を卒業し、小学生になると体系的・系統的な授業で様々なことを学ぶことになるのだが、教育現場に金銭教育の全てを依存することは出来ない。家庭には家庭の中だからこそ出来る教育もある。面倒くさいと思う向きもあるだろうが、子どもの自立と自律に向けた大切な時期として考えていただきたい。特に低学年の段階では、基礎を作るという意味でも大事な時期として捉えていただきたいものだ。家を建てる際に基礎工事を適当に済ませて、その上に家を建てたらどんなことになるか…！「金融リテラシー・マップ」の中でも、小学生に行うべき教育を「社会の中で生きていく力の素地を形成する」時期としている。お金に関わって、徐々に経験・知識などを積み上げ、人格を持った一人の人間として認識していく時期だ。おこづかいやお年玉の管理、買い物やお手伝いなどを通して、社会と関わりながら主体的に行動する力を、コツコツと養っていかねばならない。この大切な時期に素地を形成できなければ、お金の大切さが理解されなかつたり、使い癖が付いたりするかもしれない。この時期、家族で大切に関わっていききたいものだ。

● 小学生になった子供に伝えたいこと

人は往々にして、自身で苦労しないで手に入ったものは、その価値をあまり感じないものだ。幼児のころは仕方ないとしても、学校という社会の中で生きていくには、物を大切に使うという習慣を身に付けなければならぬ。また、食べ物を残さず食べるといふ食育も意識することも大切だ。物があふれる環境にあって、比較的可たん手に手に入ってしまう豊かな時代だからこそ、その価値を知る必要がある。誰が、どのように作って、どのように手に入ったのか…!?一連の流れを一緒に考えてみると、それ自体が楽しいかもしれない。

私自身の20年以上も前の子育ての経験を思い出した。子どもがまだ小学生の頃、夏休みに「食べ物を大切に！残さず食べて欲しい」との想いで、知り合いの養豚農家に養豚場の見学をお願いしたところ、特別に見学することが出来た。まるで工場のような大規模な豚舎で、一頭一頭が狭い枠の中で飼育されている様子が親自身も驚きだった。可愛い子ブタが誕生し、人間の食物となる目的のために成長し、精肉になるまでの一生を終える。食物連鎖と割り切れればそれまでだが、食べられるための豚の命を考えると、本当に食べ残してはいけないことを、学ぶというより強く感じたものだった。養豚場の見学の後、子どもは夏休みの自由研究のテーマとし、とても貴重で大切な経験となった。今どき、そんな経験は難しいと思うが、感じる経験・体験は今こそ大事なのかもしれない。

● 物やお金に限りがあること

自分で働いて得たお金や、そのお金で手に入れた物であれば、おのずとその大切さは理解できるが、小学生の頃はそれを体感することは難しい。であれば、どうやってその価値を教えるかだ。お小遣いやお年玉などがあつたとしても、欲しいもの全てが手に入られるわけではない。お金を貯めるという習慣や、家庭内のお手伝いから得られる褒美であったり、自分で得るといふ経験や習慣も身に着けたいものだ。欲しいものがあつても我慢することを理解し、予算内で購入するという節度や、貯めてから買うという習慣も育てたいものだ。これらの習慣が身に付いていないまま、社会に出て無計画な日々を送るとどういふことになるのか…。子どもへの教育のみならず、親自身も家計管理を考え直す良い機会になるかもしれない。

まだまだ書き足りないことがあるので、続きは来月にしよう。

● 来月号は

もっともっと具体的に掘り下げてみよう。